

新選組

新選組(しんせんぐみ)は、江戸時代後期の幕末期に、主として京都において、反幕府勢力弾圧・警察活動に従事した後、旧幕府軍の一員として戊辰戦争を戦った軍事組織である。

新撰組と表記された資料も多い。

局長の近藤勇自身、「選」「撰」の両方の字を用いている。

近藤 勇(こんどう いさみ)

新選組局長。晩年は幕臣。

勇は通称、諱は昌宜(まさよし)。

土方 歳三(ひじかた としぞう)

新選組副長、幕末期の幕臣。諱は義豊。雅号は豊玉。

新選組**鬼の副長**として皆に恐れられた。

戊辰戦争では幕府側指揮官の一人として凶抜けた軍才を発揮し、いわゆる「蝦夷共和国」においては陸軍奉行並箱館市中取締裁判局頭取に就任した。家紋は左三つ巴。

沖田 総司(おきた そうじ)

江戸時代後期、幕末の新選組一番隊組長及び撃剣師範。

本姓は**藤原**を称した。諱は春政、後に**房良**に。幼名は**宗次郎**。

父は陸奥白河藩士の沖田勝次郎で長男。

2人の姉がおり、沖田家は姉のみつが婿の林太郎を迎えて相続させる。

みつの曾孫の沖田哲也は行政学者で明治大学政経学部名誉教授。

永倉 新八(ながくら しんぱち)

新選組二番隊組長及び撃剣師範。幼名は栄吉、栄治。
諱は載之(のりゆき)。明治4年以降は、**杉村義衛**。

池田屋事件

池田屋事件(いけだやじけん)とは、幕末の元治元年6月5日(1864年7月8日)に、京都三条木屋町(三条小橋)の旅館・池田屋で京都守護職配下の治安維持組織である新選組が、潜伏していた長州藩・土佐藩などの尊皇攘夷派を襲撃した事件。**池田屋騒動**といわれている。

● 歴史

結成

文久2年(1862年)、江戸幕府は・清河八郎の建策を受け入れ、将軍・徳川家茂の上洛に際して、将軍警護の名目で浪士を募集。

翌文久3年(1863年)2月27日、集まった200名余りの浪士達は将軍上洛に先がけ、浪士組として一団を成し、中山道を西上する。浪士取締役には、松平上総介、鶴殿鳩翁、窪田鎮克、山岡鉄舟、中条金之助、佐々木只三郎らが任じられた。京に到着後、清河が勤王勢力と通じ、浪士組を天皇配下の兵力にしようとする画策が露見する。浪士取締役の協議の結果、清河の計画を阻止するために浪士組は江戸に戻る事となった。これに対し近藤勇、土方歳三を中心とする試衛館派と、芹沢鴨を中心とする水戸派は、あくまでも将軍警護の為の京都残留を主張。

鶴殿鳩翁は、浪士組の殿内義雄と家里次郎に残留者を募るよう指示。これに応じて試衛館派、水戸派、殿内以下、根岸友山一派などが京の壬生村に残ったが、根岸派は直後に脱退、殿内・家里は排斥され、同年3月、新選組の前身である「壬生浪士組」を結成。

壬生村の八木邸などを屯所とし、第一次の隊士募集を行う。その結果36人余の集団となった壬生浪士組は、京都守護職松平容保(会津藩主)より、主に攘夷倒幕派浪士達による不逞行為の取り締まりと市中警護を任される。

同年8月に起きた八月十八日の政変に出動し、壬生浪士組はその働きを評価される。そして、新たな隊名「新選組」を拝命する。なお、隊名は武家伝奏から賜ったという説と、松平容保から賜ったという2つの説がある。

発展

文久3年(1863年)9月、近藤・土方ら試衛館派は、芹沢ら水戸派を肅清して隊を掌握し、近藤を頂点とする組織を整備する。元治元年(1864年)6月5日の池田屋事件では尊王攘夷派の蜂起の計画を未然に防ぎ、禁門の変に参戦(ただし、池田屋事件に関しては尊皇派の陰謀が事実であったかどうかは証拠に乏しく、史疑もある)。

池田屋・禁門の変の働きで朝廷・幕府・会津藩より感状と200両余りの褒賞金を下賜されると、元治元年(1864年)9月に第二次の隊士募集を行い、更に近藤が江戸へ帰郷した際に伊東甲子太郎らの一派を入隊させる。新撰組は200人を超す集団へと成長し、隊士を収容するために壬生屯所から西本願寺(京都市下京区)へ本拠を移転する。慶応3年(1867年)夏頃には幕臣に取り立てられる。

慶応3年(1867年)3月、伊東らの一派は思想の違いなどから御陵衛士を拝命して隊から分派するが、同年11月、新撰組によって肅清される。

解散

慶応3年(1867年)11月に徳川慶喜が大政奉還を行った。以降旧幕府軍と共に鳥羽・伏見の戦いに参戦するが、新政府軍に敗北。その後、榎本武揚が率いる幕府所有の軍艦で江戸へ移動。

新選組は幕府から、新政府軍の甲府進軍を阻止する任務を与えられ、甲陽鎮撫隊と名を改め出撃するが敗戦。甲州勝沼の戦いの後、江戸に戻ったが、方針の相違から永倉新八らは分離して靖兵隊を結成。近藤、土方らは再起をかけ、流山へ移動するが、近藤が新政府軍に捕われ処刑され、沖田総司も持病だった肺結核の悪化により江戸にて死亡。

新選組は宇都宮城の戦い、会津戦争などに参戦するが、会津では斎藤一等が離隊。その後蝦夷共和国の成立を目指す榎本武揚らに合流し、二股口の戦い等で活躍する。新政府軍が函館に進軍しており、弁天台場で新政府軍と戦っていた新選組を助けようと土方ら数名が助けに向かうが、土方歳三が銃弾に当たり死亡し、食料や水も尽きてきたため、新選組は降伏した。旧幕府軍は函館の五稜郭において新政府軍に降伏した(箱館戦争)。